

平成 30 年度分担研究報告書

医師調査データを用いた医師の産休・育休取得と就業形態に関する分析

研究分担者 康永秀生

(東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学 教授)

研究協力者 麻生将太郎

(東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学 大学院生)

研究要旨

2016 年の医師調査の個票データを用いて、医師の産休・育休取得と就業形態を調査した。組み入れ基準を満たした 251,442 人のうち、2016 年 12 月 31 日時点で、産休・育休を取得していた医師は 2,163 人 (0.9%)、そのうち育休を取得した男性はわずか 16 人であった。就業形態について、非常勤は 29,662 人 (11.8%) であり、そのうち女性は 13,227 人 (44.6%)、平均年齢は 39.2 歳であった。常勤と比較して非常勤は有意に女性の割合が高く、平均年齢は低かった。50 歳以下の女性医師の中では、非常勤は常勤と比べて産休・育休を取得している割合が有意に低かった (3.8% vs 4.9%, $P < 0.001$)。今後さらに休業の取得や就業形態の詳細な調査が必要と考えられた。

A. 研究目的

わが国では医師が年々増加しつつある一方、女性医師の割合も相対的に増加している。全国的な研修医の男女比は、かつては約 9 : 1 という時期があったものの、近年は約 7 : 3 となっている。

女性医師の増加に伴い、女性医師の産休・育休のみならず男性医師の育休を取得しやすい環境の整備が今後さらに重要になると考えられる。しかし、医師の産休・育休取得に関する統計データはこれまで不足しており、その実態は明らかではなかった。

また近年、医師の働き方も多様化しているとみられる。常勤ではなく非常勤の就業形態を取る医師も増えていくとみられるものの、統計データは不足している。

2016 年の医師・歯科医師・薬剤師調査において、医師等の産休・育休取得や

就業形態が調査項目に加えられた。本研究では、2016 年の医師調査の個票データを用いて、医師の産休・育休取得や就業形態の現状について詳細な分析を試みた。

B. 研究方法

2016 年の医師調査の個票データを用いて、2016 年 12 月 31 日時点の医師の産休・育休取得と就業形態を集計した横断研究である。

「業務の種別」のうち、6) 医育機関の臨床系の大学院生、及び 8) 医育機関の臨床系以外の大学院生、に該当する医師は、休業取得の対象外であるため、本分析から除外した。また 65 歳以上医師も除外した。

「業務の種別」のうち、以下に該当する医師を対象に組み入れた。

- 1) 診療所の開設者または法人の代表者、
- 2) 診療所の勤務者、
- 3) 病院の開

設者または法人の代表者、4) 病院の勤務者、5) 医育機関の臨床系の教官または教員、7) 医育機関の臨床系の勤務者で5)及び6)以外の者。

変数

性別、年齢、勤務先(診療所、市中病院、大学病院)を背景因子とした。休業の取得は産休、または育休を取得している場合と定義し、介護休業は除外した。就労形態は常勤と非常勤に分けた。

統計解析

カテゴリー変数は χ^2 乗検定を行い、連続変数は t 検定を行った。 $P < 0.05$ で統計学的有意差ありと判断した。

解析に用いたソフトウェアは Stata version 15.0 (Stata TX, USA) である。

C. 研究結果

2016年の医師調査データの全コホート363,043人のうち、本研究の組み入れ基準に該当した医師は251,442人であった。

表1は該当した医師の背景因子である。性別は男性が192,214人(76.4%)、平均年齢45.2歳(標準偏差11.0)であった。所属は診療所66,957人(26.6%)、市中病院129,897人(51.7%)、大学病院54,588人(21.7%)であった。

2016年12月31日時点で、産休・育休を取得していた医師は2,163人(0.9%)で、そのうち男性は16人(0.7%)であった。産休・育休を取得した医師の平均年齢は35.5歳(標準偏差4.0)で、診療所では169人(7.8%)、市中病院では1,187人(54.9%)、大学病院では807人(37.3%)であった(表2)。

2016年12月31日時点で、非常勤は29,662人(11.8%)であった(表3)。そのうち、16,435人(54.4%)が男性、平均年齢は39.2歳(標準偏差9.7)で

あった。所属は診療所では5,991人(20.2%)、市中病院では10,779人(36.3%)、大学病院では12,892人(43.5%)であった。常勤医と比べて、非常勤の女性の割合は有意に高かった(44.6% vs 21.7%, $P < 0.001$)。平均年齢は常勤と比べて非常勤の方が有意に若かった(39.2歳 vs 46.0歳, $P < 0.001$)。

50歳以下の女性は46,570人で、平均年齢は37.3歳(標準偏差7.1)であった(表4)。所属は診療所8,106人(17.4%)、市中病院24,560人(52.7%)、大学病院13,904人(29.9%)であった。

そのうち、産休・育休を取得した医師は2,144人(4.6%)で、所属は診療所167人(2.1%)、市中病院1,171人(4.8%)、大学病院806人(5.8%)であった。就労形態が非常勤なのは11,236人(24.1%)で、所属は診療所5,991人(20.2%)、市中病院10,779人(36.3%)、大学病院12,892人(43.5%)であった。産休・育休を取得している割合は常勤と比べて、非常勤は有意に低かった(3.8% vs 4.9%, $P < 0.001$)。

D. 考察

2016年の医師調査の個票データを用いて、産休・育休を取得や就業形態について集計・分析した。産休・育休の取得は医師全体の0.9%で、女性の中でも4.6%であった。また就業形態では非常勤は女性が多く、年齢が若かった。特に、大学病院が多かった。

産休・育休の取得は法律で認められており、男女を問わない。それは医師も同じである。しかし本研究の結果から、男性が育休を取得することは稀であることが明らかになった。

2016年の雇用均等調査によれば、企業

における男性の育児休業の取得割合は約 3.16%であり、男性が育児休業を取得できる事業所も約 5.4%にとどまった[1]。本研究の結果から、男性医師は一般企業に従事する男性よりもさらに育児休業を取得する割合が低いことが推察された。

就業形態については、非常勤は全体で 11%であり、女性の割合が高く、平均年齢が低かった。非常勤は、常勤として働くよりも労働時間が短く、時間に余裕があるため、育児中の女性が非常勤として働くこと多いことが考えられる。また、大学病院では医師が多数勤務しているので、常勤として働けないことが、非常勤の状態では若い医師が働いている理由の一つと考えられる。産休・育休を取得している妊娠可能な年齢の女性では、就業形態は非常勤の方が有意に低かった。理由としては、常勤では産休・育休を取得することは認められているが、非常勤の就業形態では産休・育休の取得が認められていない可能性がある。また、産休・育休後に育児を行っている女性が、常勤の労働時間では労働できないことが理由と考えられる。

本研究には限界がある。一点目は、結婚、妊娠・出産の有無、子供の有無のデータがないことである。産休・育休の取得は、子供の人数や結婚の状態も併せて検討する必要がある。本研究では、母数は基準を満たした対象としたが、実際は妊娠している女性や子供のいる男性を対象とした育休の取得を評価する必要がある。二点目は、医師調査の提出率が不明な点である。常勤ではない場合、医師・歯科医師・薬剤師調査を提出していない可能性や、常勤であっても非常勤で他の病院で労働していることを申告していない可能性もある。三点目は、大学院生の労

働の実態が不明な点である。妊娠・出産・育児のために大学院生としての研究を差し控えている状態があるかもしれない。また、大学院生でも非常勤で労働していることはあるため、その労働実態を正確に把握する必要があると考えられる。四点目は、本研究は横断研究であり、産休・育休の取得や就労形態が時系列でどのように変化したかは不明である。

結論

2016 年の医師調査の個票データを用いて、医師の産休・育休の取得や就労形態の実態について調査した。今後さらなる詳細なデータを利用することで医師の労働実態を明らかにする必要がある。

参考文献

1. 厚生労働省 平成 29 年度雇用均等基本調査
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/71-29r.html>

E. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1 対象医師の背景

計	251442
男性(%)	192214 (76.4)
年齢(標準偏差)	45.2 (11.0)
所属(%)	
診療所	66957 (26.6)
市中病院	129897 (51.7)
大学病院	54588 (21.7)

表 2 産休・育休を取得した医師の背景

計	2163
男性(%)	16 (0.7)
年齢(標準偏差)	35.5 (4.0)
所属(%)	
診療所	169 (7.8)
市中病院	1187 (54.9)
大学病院	807 (37.3)

表 3 就労形態による医師の背景

	非常勤 n = 29662	常勤 n = 221780	P value
男性(%)	16435 (55.4)	175779 (79.3)	< 0.001
年齢(標準偏差)	39.2 (9.7)	46.0 (10.9)	< 0.001
所属(%)			< 0.001
診療所	5991 (20.2)	60966 (27.5)	
市中病院	10779 (36.3)	119118 (53.7)	
大学病院	12892 (43.5)	41696 (18.8)	

表 4 50 歳以下の女性医師の背景

計	46570
年齢(標準偏差)	37.3 (7.1)
所属(%)	
診療所	8106 (17.4)
市中病院	24560 (52.7)
大学病院	13904 (29.9)
産休・育休の取得	2144 (4.6)
非常勤勤務	11236 (24.1)